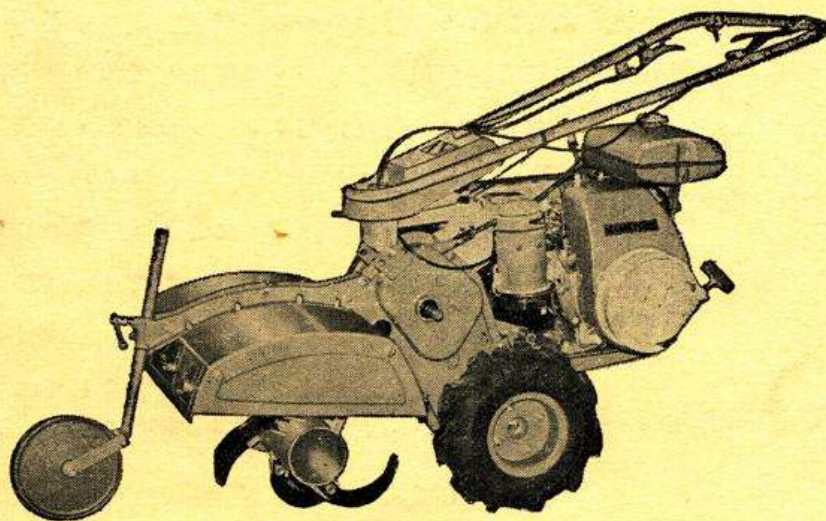


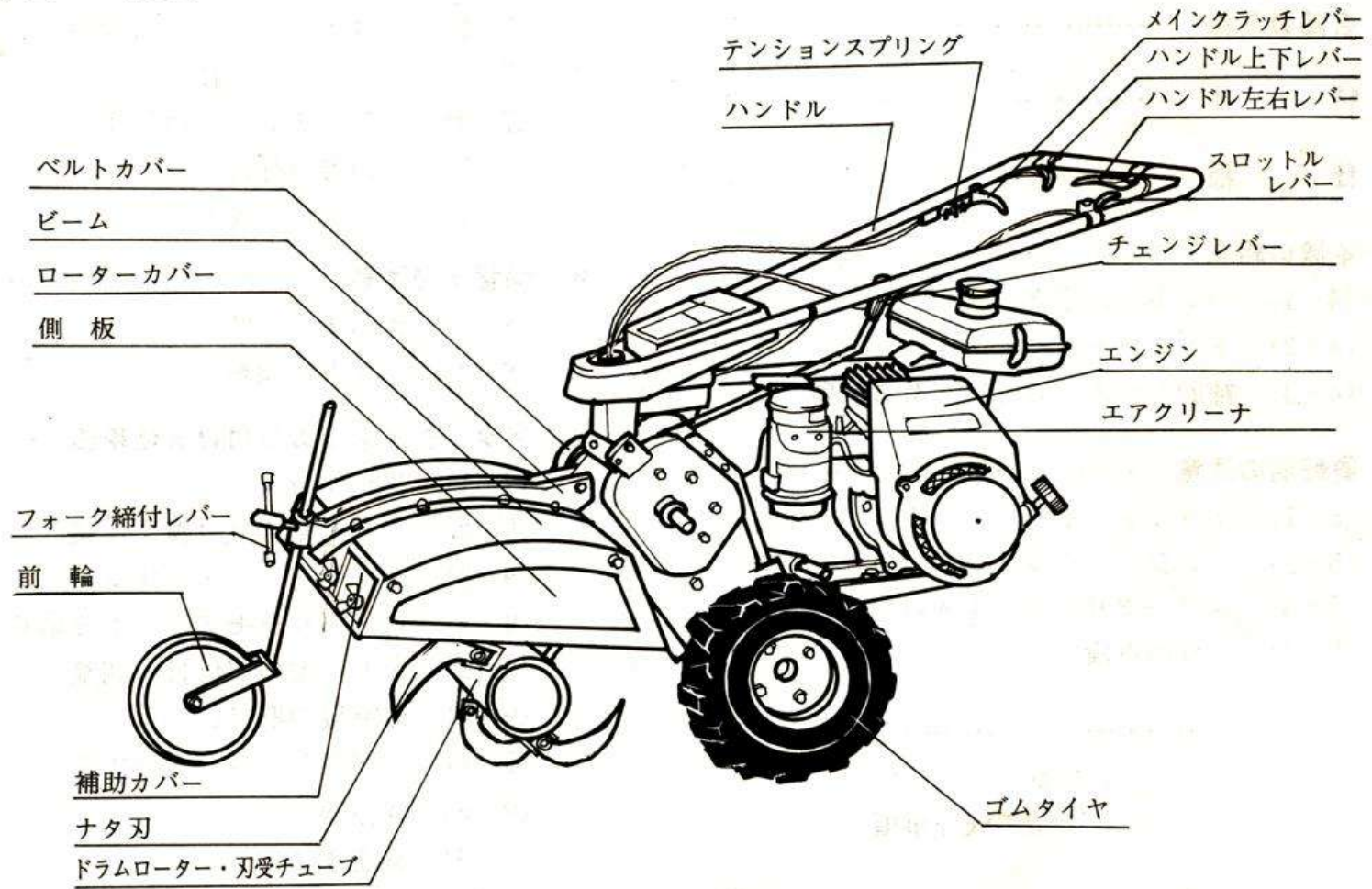
マメトラリターンカルチ MRD

使用説明書



マメトラ 農機株式会社

1. 各部の名称



3. 仕様

本機

本機型式	ロータリー逆転, 自走式	
寸法	長×巾×高 _{mm}	1,343 ³ ×540×940 ⁰
	重量	58kg (エンジンなし)
主クラッチ	ベルトテンション式	
変速段数	前進2段 後進1段	
作業巾	標準500mm 最大800mm	
轍間距離	最少360mm 最大550mm	
車輪径	310φ	
伝導方式	エンジン—主軸—車軸 (Vベルト) (ギヤー) 主軸—耕耘軸 (チェーン)	
ローター爪外径 ×爪本数	ドラムローター 290φ×14本 ドラム補助 290φ×8本 耕耘用 390φ×14本	
キャリヤ運搬	100kg積載、登坂力23°	
主軸、PTO回転数	500r.p.m	
速度	L	0.256m/s 0.925km/h
	H	0.955m/s 3.44km/h
	R	0.312m/s 1.12km/h

エンジン

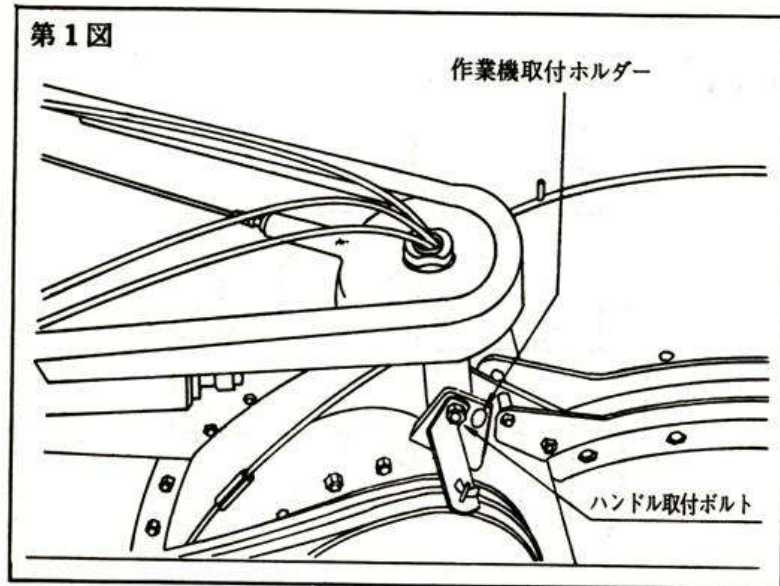
エンジン	L-11	GE18BR	MG3L
形式	空冷2サイクル	空冷4サイクル	空冷4サイクル
排気量	100cc	182cc	180cc
最大出力/回転数	3.8ps/2,000r.p.m.	4.5ps/2,100r.p.m.	4.5ps/2,000r.p.m.
潤滑方式	混合式 25:1オイル	飛沫式	飛沫式
使用オイル	MS級オイル SAE 30#	MS級オイル SAE 30#	MS級オイル SAE 30#
起動方式	リコイルスターター式	リコイルスターター式	リコイルスターター式
点火栓	NGK-B6	NGK-B6HS	NGK-B6
燃料タンク	3.8ℓ	4.0ℓ	4.0ℓ
燃料消費量	330gr/ps/hr	305gr/ps/hr	300gr/ps/hr
重量	17kg	22kg	17.5kg

4. 本機の組立

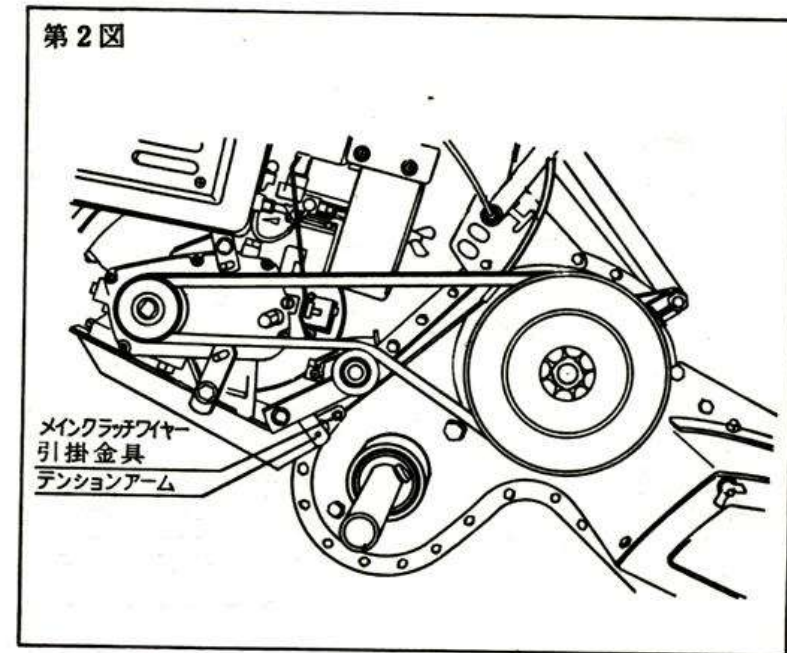
【4-1】 ハンドルの組立

- (1) ハンドルの取付ボルトを外して、ハンドル本体を本機ミッション上部のハンドル取付ホルダー(ボルト穴が前後に2ヶ所あるエンジン側です。)にボルトを通して止めナットで充分締付けます。

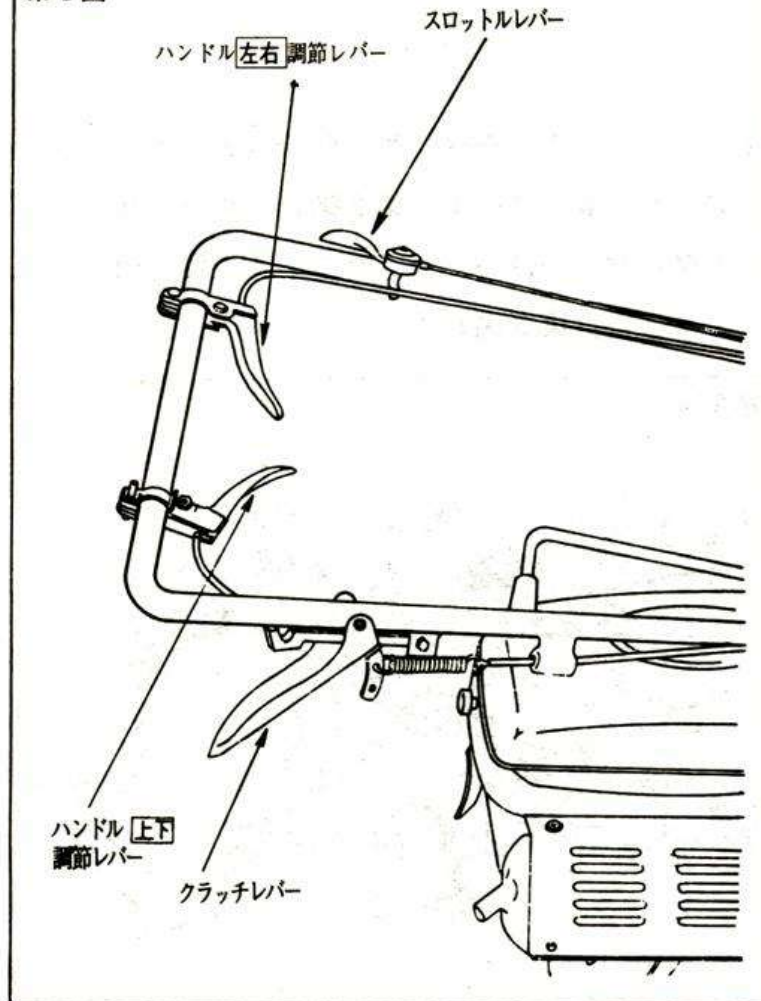
(第1図)



- (2) メインクラッチワイヤー引掛金具をテンションアームに取り付けます。(第2図) スロットルレバーをワイヤーの付いたままハンドル左側にセットして下さい。(第3図)



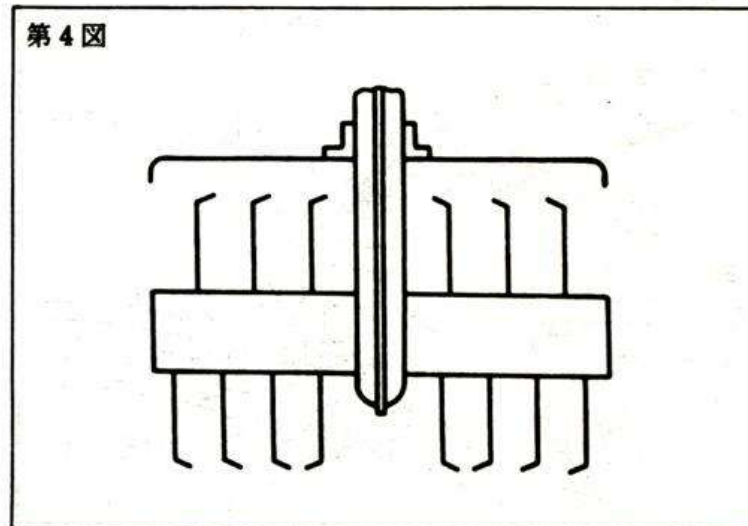
第3図



【4-2】 ドラムローター

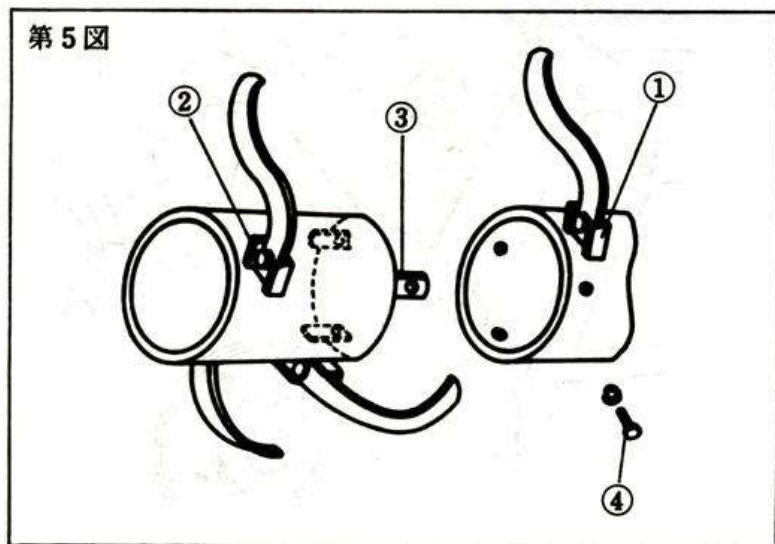
ドラムローターの刃の配列はミッションケース左右の1本は外向にその他は全部内向に取付けて下さい。ローターが逆転式ですから刃の曲り方向注意して下さい。(第4図)

第4図

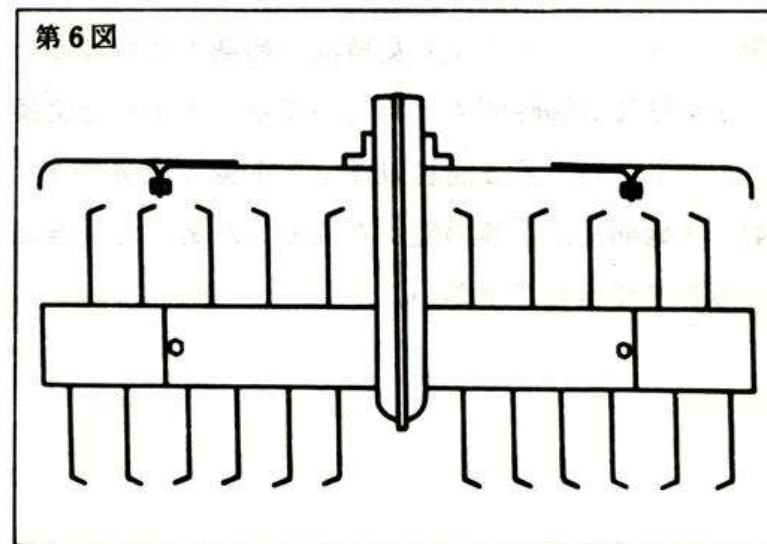


【4-3】 補助ドラムの取付けと刃の配列

- (1) 圃場条件の良い所では、能率を上げるため補助ドラムがあります。補助ドラムの取付けは（第5図）の如くドラムの外側の刃受①と補助ドラムローターの外側刃受②とが横から見てほぼ重なるような位置にして3個のボルトで取付けて下さい。適当に締めてから回転させて心振れを直してから確実に締付けます。（第5図）



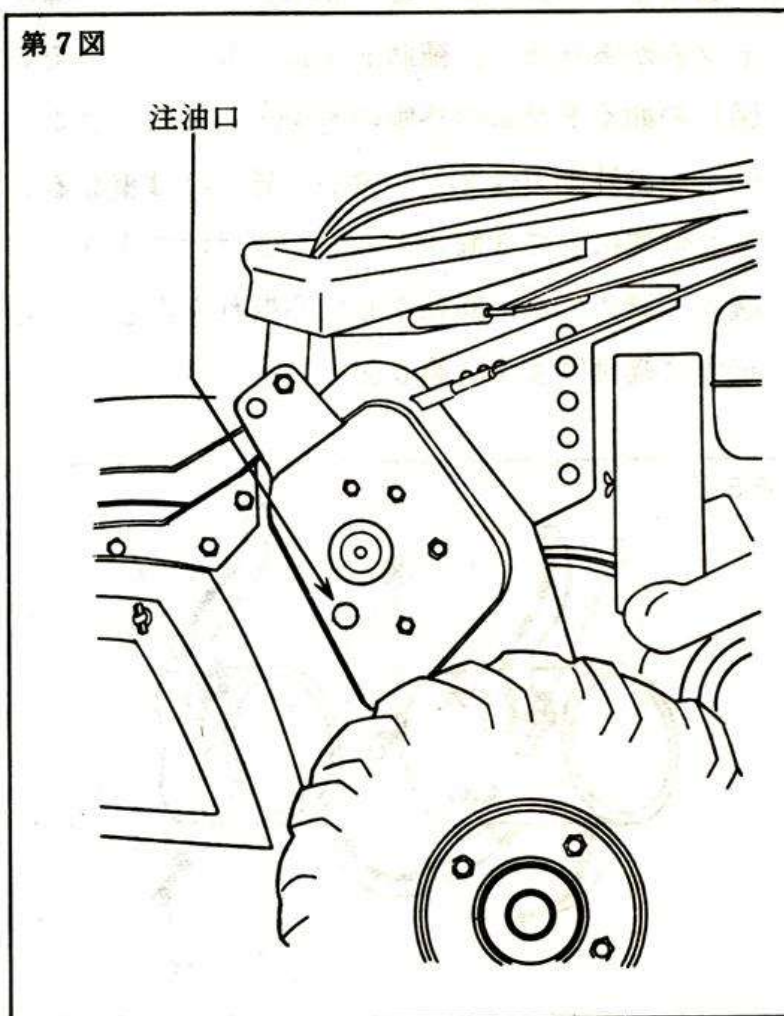
- (2) 補助ドラムをセットした場合は、刃の配列は（第6図）の如く行って下さい。刃の配列によって、作業精度が異って来ます。
- (3) 補助ドラムをセットした場合は、それに合せて補助カバーを取付け調整して下さい。（第6図）



5. 運転前の注意

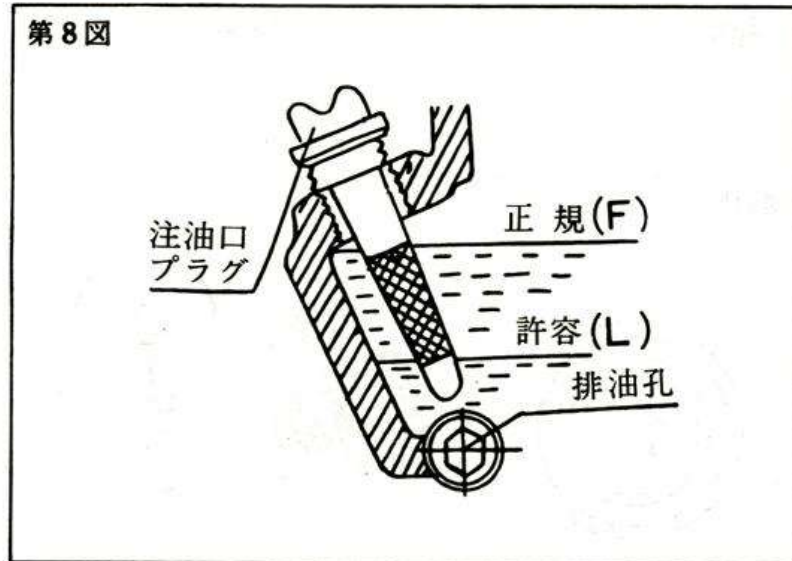
【5-1】 ミッションオイル

- (1) ミッションオイルは、工場より出荷時に入れてありますが、今一度運転前に注油口の蓋を外して確かめて下さい。注油口口元まで入っていない場合は、オイルを入れて下さい。(第7図)
- (2) ミッションオイルは、SAE 90#又は120#ギヤオイルを使用して下さい。
- (3) ミッションオイルの交換は、初期1回目は4～5ヶ月又は50時間で、新しいギヤオイルと交換して下さい。第2回目以降は年1回で充分です。
- (4) 各軸部又は、其の他から油モレがあった場合は必ず補給して下さい。

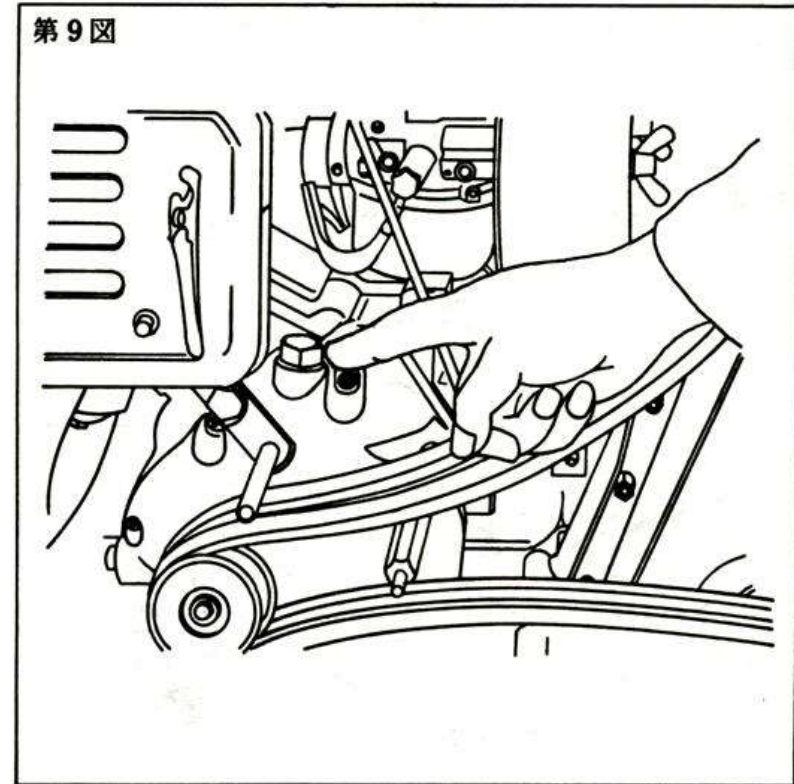


【5-2】 エンジンオイル

- (1) GE 18BR 又は、MG 3L型エンジンの場合
エンジンのクランク室に良質のモービルオイルS
AE 30# (冬期20#) をエンジンを水平にして、
注油孔口元まで一杯に入れて下さい。(第8図)

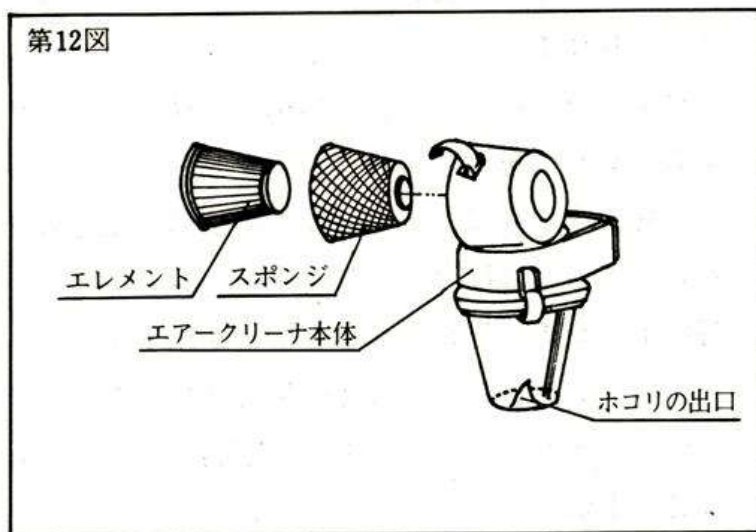


- (2) L-11型2サイクルエンジンの場合
エンジンの減速室の蓋を外して、減速室に良質の
モービルオイルS AE 30# を油面ゲージの目盛ま
で入れて下さい。(第9図)



(2) GE18BR エンジンの場合

エアークリーナはサイクロン方式を採用していますから標準クリーナより除塵効率も良く長時間の使用に耐えますがホコリの多い所で使用される場合は週1回はクリーナのフックを外し中のエレメントを石油または石鹼水で洗浄して下さい。(第12図)



(3) MG 3 L エンジンの場合

油槽式 (オイルバスタイプ) ですから、運転前に必ずオイル受皿に規定量のオイル S A E 30 # を (注) 赤線より多く入れると、吸入効率が悪くなり出力が低下します。通常50時間、ホコリの多い所では20時間に1度は、オイル交換とエレメントをガソリン又は石油で洗浄して下さい。

(第13図) MG 3 L

エンジンの詳しい取扱いについては、エンジンの取扱い説明書を御覧下さい。



【5-4】 各部の点検

運転前に必ず各部のネジのゆるみがないか、良く調べてから使用して下さい。

6. 始動注意

【6-1】 エンジンの始動前に必ずメインクラッチを、切ってから行って下さい。メインクラッチの操作は、クラッチレバーの操作【7-4】の項を見て下さい。

【6-2】 エンジンを作動した状態では、次のことはやらないようにして下さい。

イ. 燃料補給 ロ. ベルトカバーの着脱 ハ. ベルトの調整 ニ. ロータリーの草やごみを取除く作業
(必ずエンジン停止させること)

7. 運転中の注意

【7-1】 チェンジレバーの操作

(1) 本機はチェンジレバーが前後に移動が出来る状態(ニュートラル)では既にロータリーの爪クラッチは噛合っております。ロータリーを手廻ししたい時にはチェンジレバーを**高**に入れて下さい。(ロータリーに巻付いたゴミを取除く場合は必ずエンジンを停止して下さい)

高速から**低**または**後**に切替える場合は右手で半クラッチ操作をしながら、左手でチェンジレバーを切替えて下さい。(第14図)機構上高速から中立の位置にレバーをもどす時にロータリーの爪クラッチが噛合うようになっていますので爪の山と谷とが合っていれば簡単に入りますが、合っていない時は半クラッチ操作をしないと切替が出来ません。チェンジレバーの切替は**低**と**後**の切替はクラッチを切らずとも差支えありませんが**高**に入れる場合は必ず切ってからにして下さい。

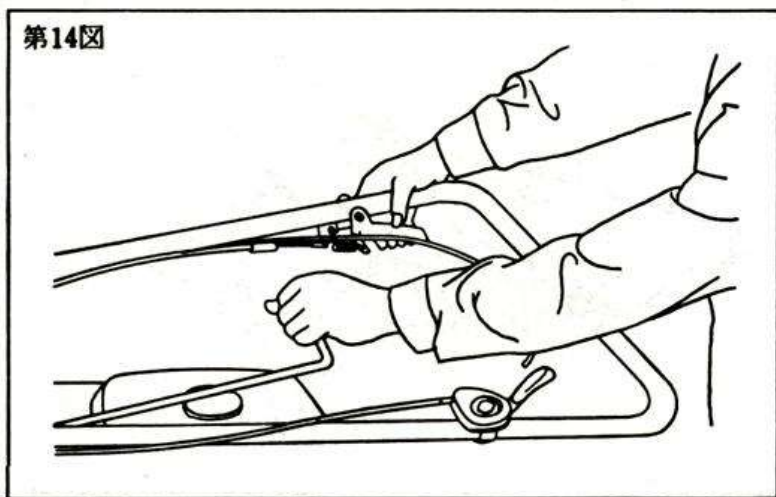
【7-2】 リコイルスターターの掃除

ゴミやホコリの多い所で使用しますと、空気吸込口に草やワラ等が附着しますので、時々取除いて下さい。

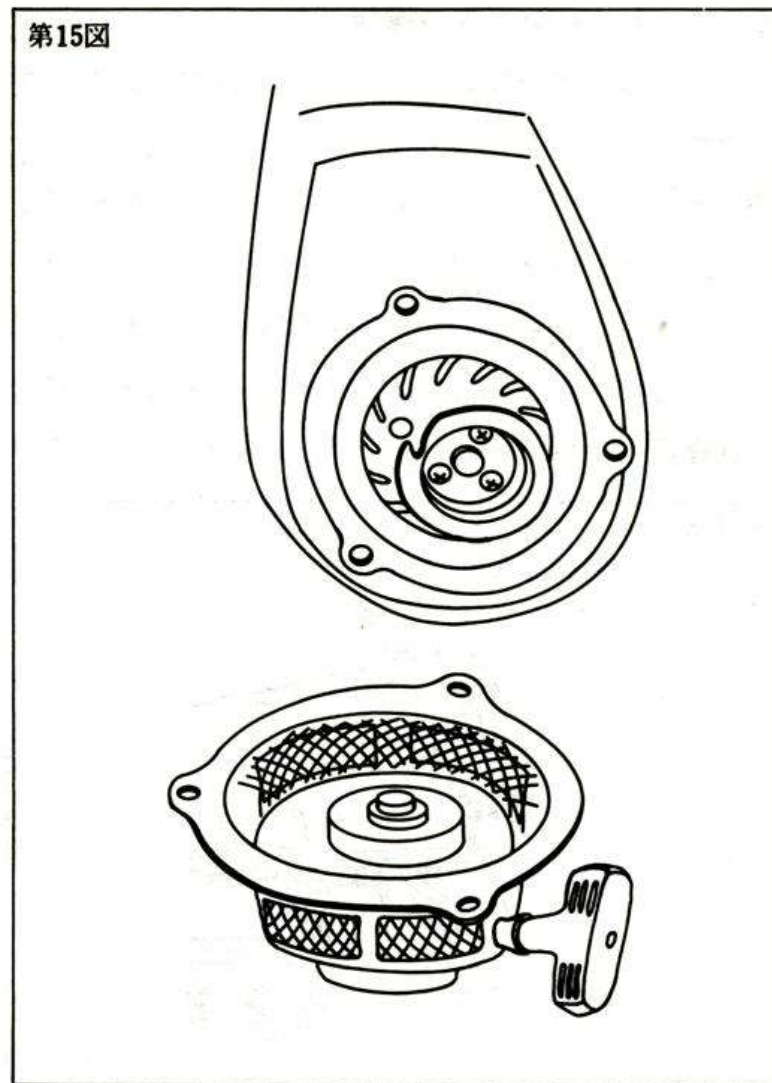
永く使用してスターターの中に砂ホコリが積ると、始動の場合に爪が出なくなったりロープのモドリ不良となることがあります。

この様な時は3ヶ所のボルトを外して、リコイルスターターを外してガソリンで洗淨後に中心部軸等にオイルを注油して取付けて下さい。(第15図)

第14図



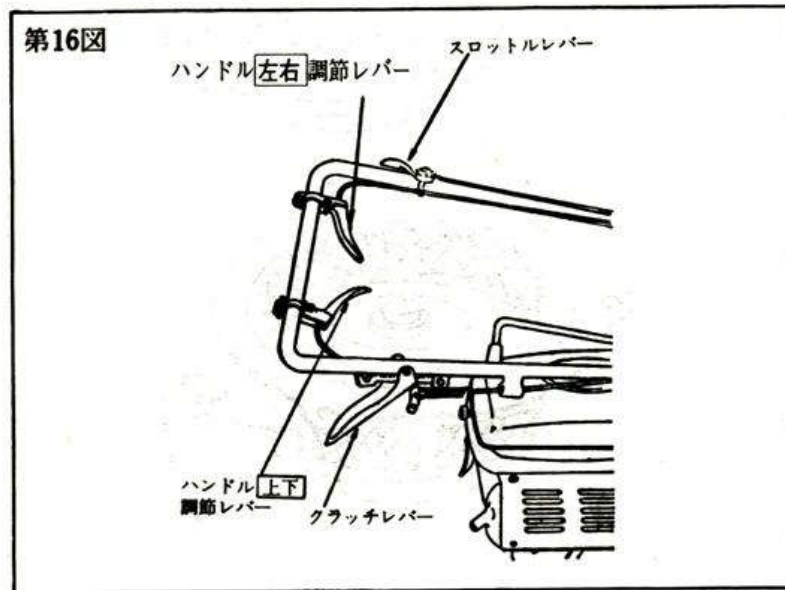
第15図



【7-3】 ハンドルの操作

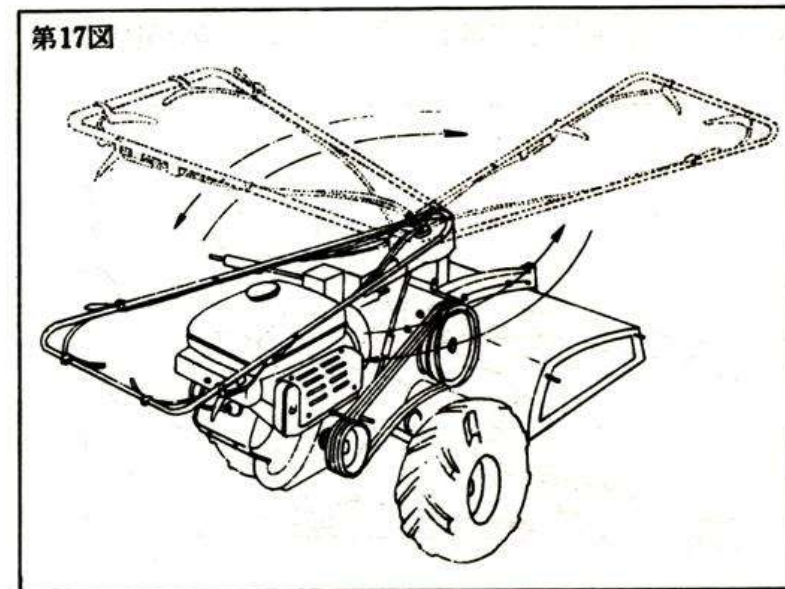
ハンドルの操作は、上下・左右と180°回転も可能です。

- (1) ハンドル上下は、右側レバーを握って操作します。作業に合わせて使用して下さい。
- (2) ハンドル左右の移動は、左側レバーを握りますと中心より左右に15° 34°と調整が出来ます。MRD専用 キヤリヤをセットした場合は、左側のレ



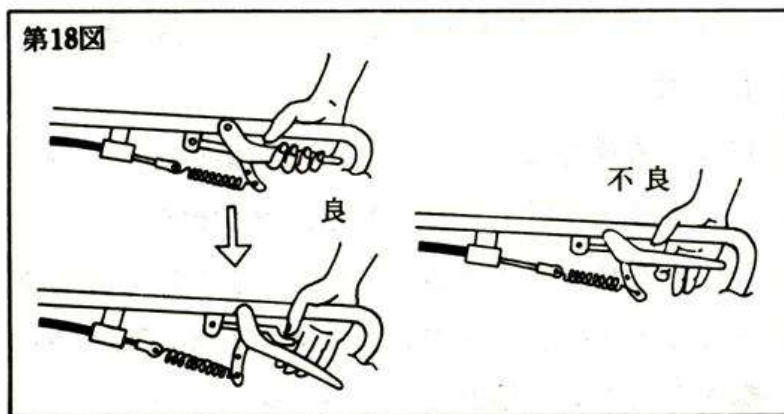
バーを握った状態でロックしておいて下さい。

- (3) 180°回転させてバック速度を前進で使用することも出来ます。此の場合ハンドルを元にもどすには、始め回転させた方向にもどして下さい。同一方向に回転させますと、クラッチワイヤー、スロットルワイヤー等をねじってしまいますので注意して下さい。(第16図) (第17図)



【7-4】 クラッチレバーの操作

- (1) クラッチレバーはレバーを握り、レバーが上った状態でクラッチが入ります。クラッチを入れるには、右手4本の指でレバーを握ると、クラッチ固定金具がカチリと入りクラッチがロックされます。
- (2) クラッチを切る場合は、クラッチレバーとクラッチ固定金具の両方を一諸に握り同時にはなしますと切れます。
- (3) クラッチを切る時に、固定金具とクラッチレバーとを別々に握りますと、固定金具の凸部が摩耗し、クラッチの固定操作が出来なくなりますので、充分注意して下さい。(第18図)



【7-5】 草の巻付掃除

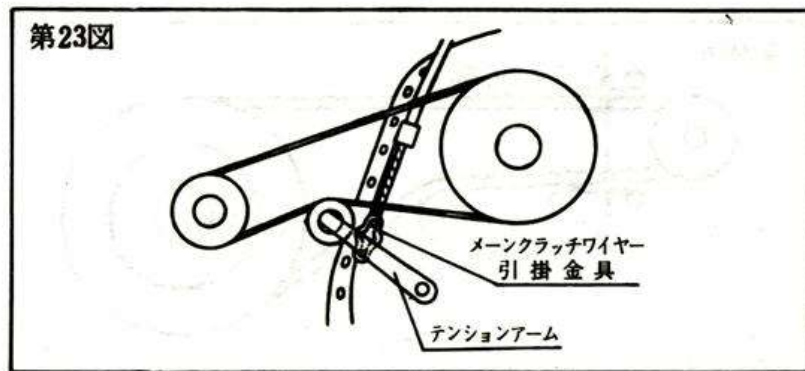
- (1) ドラムローターは、草の巻付きにくいような設計になっていますが、草の状態と使い方によっては、ドラムローターに草が巻付きます。機械に充分馴れて操作を誤らないように注意して下さい。
- (2) ドラムローターに少しの草が巻付いた時は、チェーンジレバーを中立にしてエンジンの回転を上げて下さい。車輪は停止してドラムだけ高速回転し、草が飛びちり、巻付いた草を取ることが出来ます。
- (3) ドラムローターに沢山の草が巻付きナタ刃に草がからみついている時は、エンジンを停止させてから手又は刃物で草を取除いて下さい。(第19図)
- (4) ドラムローターを手廻しして軽く回転しない時は、ドラムのセットボルトをゆるめてドラムを外し、ドラムとケースとの間のゴミを取除いて下さい。(第20図)
耕転軸には、錆びないようにオイルを注油して下さい。

8. 保管上の注意

【8-1】 運転後の注意

エンジンについては、エンジンの取扱説明書を参照して下さい。

- (1) 作業が終了保管する場合は、ロータリーカバーやドラム其の他をキイレに掃除して保管して下さい。
- (2) メインクラッチのワイヤーの調整、ベルトの引張り調整はほとんど必要ありませんが、年1回テンションワイヤー、スロットルライヤー等に注油して下さい。(第23図)



【8-2】 ベルトの調整

- (1) ベルトは耐熱、耐摩耗性テトロンベルトを使用しています。メインクラッチを握った時に、テンションの張りが弱い時は、ベルトが伸びています。
- (2) ベルトの張り加減は(第24図)の如く調整して下さい。
エンジン下側のボルトを、ゆるめてエンジン位置を前後にずらして下さい。(ベルト押え金具とベルトのスキマは3~5mmです)
ベルトを張り過ぎると、クラッチを切ってもベルトが止まらず危険です。
- (3) 保管中はメインクラッチは切っておいて下さい。

